

令和4年度のスタートにあたり、町政運営の方針についてお知らせします。

令和4年度の施策の方向

まちづくりの基本構想を位置付けた九重町第5次総合計画（令和4年度～令和13年度の10か年）が新たにスタートします。

この計画で描いたまちの将来像を目指して、

『未来へつなごう！豊かなこころと癒やしの自然 ～みんなであつなぐ未来へのバトン～』

を実現することが、将来にわたって持続可能なまちへとつながっていきます。そのためにも、住民の皆さんと対話を重ねながら各世代の住民参画のもと引き続き協働のまちづくりを進めていきます。

コロナ禍が経済活動や人々の価値観の変容など住民生活の多くの場面で影響を与えています。これら社会の変化を適切にとらえ柔軟に対応しながら町政を運営しなければなりません。令和2年7月豪雨による災害の爪痕は今もなお人々の暮らしに大きな影響を与えており、復旧はもとより、いつ起こるかわからない災害

教育行政基本方針の概要

農林畜産業の振興

- 2020年の農林業センサスで農業経営体数が4分の1弱減少していることから、新規就農者の確保、農業経営に高い意欲を持つ担い手の育成、農地の集積、省力化や低コスト化等に努めます。

原木椎茸生産量維持拡大支援事業	420万円
おおいた園芸産地づくり支援事業	5億288万円
農業次世代人材投資事業	4,575万円
草地畜産基盤整備事業	1億557万円

生涯を通じた学びの支援

- 新しい生活様式が示され、感染拡大防止に努めながら社会教育活動を再開してきました。今後も社会教育活動の在り方を検討し、コロナ禍における施設の活用を進めます。
- 若者の社会教育活動に対する理解と参画を目指して、高校1年生を対象としたサークルづくりをスタートさせます。

文化センターリフレッシュ事業	2億4,482万円
集会所建設事業	3,578万円
まちの担い手応援事業	220万円

子育て支援と児童福祉の充実

- 子育て世代包括支援センターの設置に向けて、関係機関と取り組み、妊娠期から子育て期まで切れ目ない支援体制を構築します。
- 子育て関連用品購入助成金事業では、保護者からの希望が多い抱っこ紐やベビーチェア等の5品目を追加し、利用率の向上を図ります。

子育て関連用品購入助成金事業	112万円
子宝手当事業	1,278万円
こども医療費助成事業	2,000万円

子どもの力と意欲を伸ばす学校教育

- ICTを利用した学校間交流や非常時における「オンライン授業の実施に向けた環境整備」に引き続き取り組み、ICT支援員による授業の充実や教職員の研修を推進します。
- 九重町立学校施設長寿命化計画に基づき、学校施設の整備を進め、小学校のトイレについて計画的な改修を行います。

ICT支援員設置事業	720万円
小学校グラウンド整備事業	1億339万円
小学校トイレ環境整備事業	5,065万円
給食内容充実事業	144万円



◀ 九重町HP

施政方針と教育行政基本方針の全文は九重町ホームページからご覧いただけます



◀ 九重町HP

九重町が行っている事業を分野ごとにまとめた「令和4年度版 まちの事業紹介」を4月に発行・配布しています

▼ 4〜5ページに令和4年度当初予算を掲載

これらを踏まえ、令和4年度一般会計当初予算については「九重町第5次総合計画」を基本とし、災害からの復旧を基軸に予算編成を行いました。

重要課題です。これらに対して常日頃から備えておかなければなりません。このような中、令和2年度一般会計決算において、財政構造の弾力性を示す経常収支比率が86.7%となりました。財政状況の悪化も懸念されましたが、歳入において依存財源である普通交付税等が増加したことにより改善が見られました。しかしながら、将来に向けて自主財源の確保を図り、財源確保について適切に見定めていく必要があります。歳出についても、歳出改革に向けた取組を着実に実施していくとともに、安全で安心なまちづくりを構築するための持続可能な財政基盤の確立が重要課題です。



令和4年度 施政方針と

安全で安心なまちづくり

- 令和4年度は防災行政無線デジタル化事業の最終年度となります。防災・減災対策、災害時の情報伝達手段の確保、強化に向けた取組を推進していきます。

防災行政無線デジタル化整備事業	1億3,180万円
消防車購入事業	2,684万円
避難所環境整備事業	533万円
特定建築物耐震化促進事業	2億291万円
過年災復旧事業	4億7,115万円

健康・福祉・医療の充実と推進

- 支え合いの地域づくりと相談体制の充実を進めます。
- 新たに40歳以上のポイント年齢を対象とした歯周疾患検診を始めます。
- 新型コロナウイルス感染症にかかるワクチン接種の円滑な接種体制の提供を行います。
- 高齢者一人ひとりの医療・介護等の情報を一括管理し、健康づくり事業と介護予防事業が一体的に提供できる体制づくりへ検討を進めます。

子宮頸がんワクチン接種委託事業	1,046万円
新型コロナウイルスワクチン接種関連事業	4,970万円

観光振興

- 泉水キャンプ村にインターネット予約システムを導入し、利用者の利便性向上を図ります。
- アウトドアやスポーツツーリズムなど、時代の動きに対応した誘客対策や事業支援を行い、滞在型観光に向けた取組を模索していきます。

観光情報発信事業	930万円
泉水キャンプ村予約システム導入事業	180万円
大吊橋誘客対策事業	150万円
小松地獄園地地盤調査事業	290万円

商工振興、生活、定住対策等

- 令和3年度に策定した「九重町中小企業・小規模事業者振興計画」に沿って各種施策を展開し、事業者の経営強靱化、地域経済の活性化を促進します。
- 行政手続きのオンライン化に向けて、マイナンバーカードの申請補助や休日窓口の開設等による取得率の向上に努め、マイナポータルの環境整備を図ることで自治体DXを推進します。

(デジタルトランスフォーメーション)

行政手続オンライン化事業	1,455万円
バス路線運行費補助事業	2,007万円
空き家改修・利活用事業	3,350万円

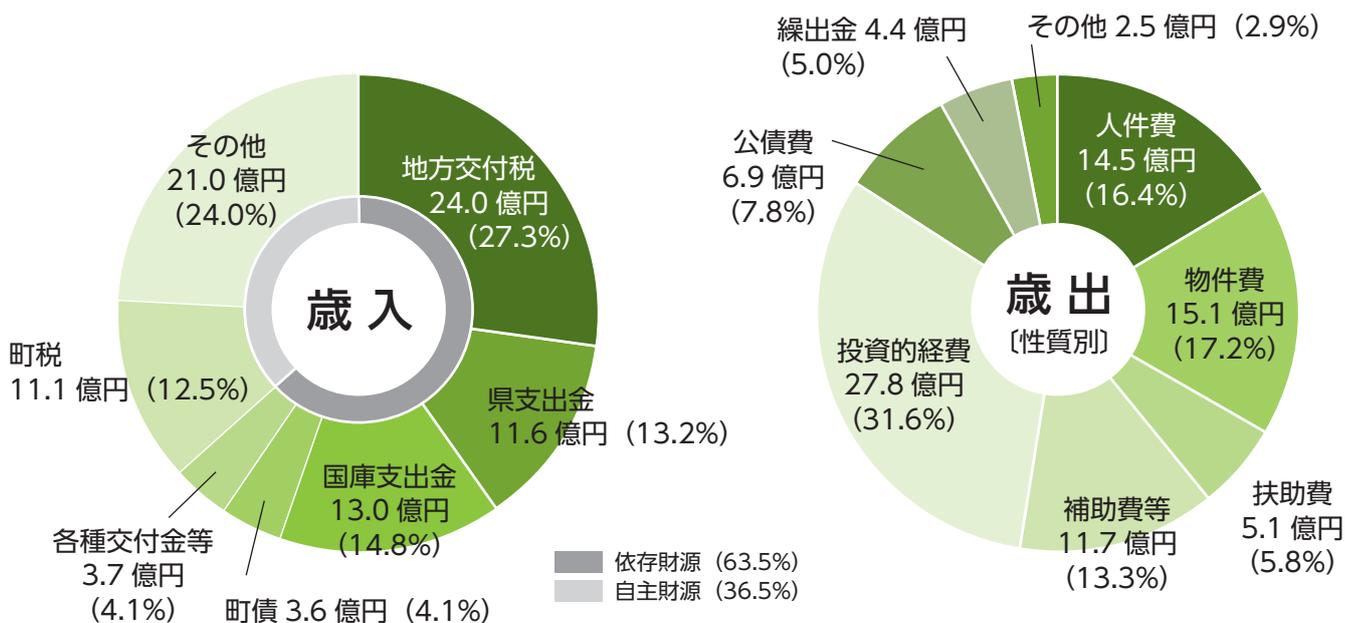
九重町の当初予算

一般会計 **88億円** (令和3年度対比 4億1,700万円増 [+5.0%])

令和4年度は、昨年度から引き続き過年災害からの復旧事業（予算額：4億7,115万円）を基軸に編成を行い、対前年度比4億1,700万円増（+5.0%）の予算となりました。

本年度も、まずは過年災害からの早期復旧を最優先とし、緊急性のあるものを除き、引き続き事業を抑制しながら組み立てています。継続事業である防災行政無線デジタル化事業や、コロナ禍において社会経済活動と感染防止対策の両立を図るべく、ワクチン接種や感染防止対策、産業への支援などの予算を計上しています。

今後も、各種事業の進捗状況を踏まえた評価・検証・見える化を段階的に実施しながら、財政の弾力性を維持しつつ、持続可能な財政基盤の確立を目指します。



特別会計 **33億2,369万円** (令和3年度対比 1億1,692万円増 [+3.6%])

特別会計は、特定の収入をもって特定の事業を行うため、一般会計と区別して事業を行うもので、独立採算が原則です。5会計総額で、約33億2,369万円のうち、最も多いのは、国民健康保険事業の15.19億円（45.7%）。次いで、介護保険事業で、14.53億円（43.7%）となっています。

区分	予算額	対前年度比
国民健康保険	15億1,905万円	7.4%
水道	1億2,187万円	3.2%
飯田高原診療所	6,787万円	▲ 5.7%
介護保険	14億5,326万円	▲ 0.6%
後期高齢者医療	1億6,163万円	14.6%

町民1人あたりに使われているお金

合計99万656円

 議会費 9,384円 町議会の運営のための経費	 総務費 15万4,831円 役場の全般的な事務の経費、ケーブルテレビの経費	 民生費 17万2,958円 高齢者や障がい福祉、子育て支援等のための経費	 衛生費 8万454円 保健衛生や疾病予防、ゴミ・し尿処理のための経費
 農林水産業費 13万1,690円 農業、林業、畜産業の振興のための経費	 商工費 2万5,969円 商工や観光の振興、大吊橋運営のための経費	 土木費 7万2,664円 道路の改良・維持管理や町営住宅改修のための経費	 消防費 4万2,505円 消防団活動や広域消防の負担金等の経費
 教育費 12万4,025円 学校教育や社会教育、スポーツや文化活動のための経費	 災害復旧費 8万965円 災害復旧のための経費	 公債費 7万7,732円 町の借金を返済するための経費	 諸支出金・その他 1万7,479円 預金への積立や予備費等

九重町人口（R4年2月末日時点）8,883人で計算



財政構造をわかりやすくするため、町の財政状況を家庭の家計簿に置き換えてみます。九重太郎さん家の1年間の総収入を実家からの援助や銀行からの借金などを含めて、552万円*として、その内容を見ていきましょう。

(*令和元年度国民生活基礎調査より、1世帯あたりの平均所得)

九重町の総収入	88億円
町税や譲与税など	14.8億円
使用料や諸収入など	7.8億円
地方交付税	24.0億円
国・県支出金	24.6億円
地方債	3.6億円
繰入金	13.2億円

九重太郎さん家の総収入	552万円	
給料や配偶者のパート収入 農業収入など	141万円	25.5%
実家からの援助金	305万円	55.2%
銀行等からの借金	23万円	4.2%
預金の取り崩し	83万円	15.1%

九重町の総支出	88億円
人件費・物件費・補助費	41.3億円
扶助費	5.1億円
公債費	6.9億円
投資的経費	27.8億円
繰出金	4.4億円
積立金など	2.5億円

九重太郎さん家の総支出	552万円	
生活費や教育費、税金など	259万円	46.9%
医療費	32万円	5.8%
ローンの返済金	43万円	7.8%
車の購入や家の増改築	174万円	31.5%
子どもへの仕送り金	28万円	5.1%
預金や予備的なもの	16万円	2.9%

恒常的な収入は、年間141万円、総収入の25.5%です。九重町のような小規模市町村の収入構造は、おおむねこのような形が多くみられます。九重太郎さん家は、今年、車の購入を予定しているため、その財源を預金の取崩しと借金で賄います。実家からの援助金は、医療費や家の増改築など使い道が定められています。